

コラム 元々事務が苦手な理系研究者が事務局スタッフとして

角田方衛（一般財団法人 新技術振興渡辺記念会 元事務参事）

少し大袈裟に言うと、私は当財団では異色の存在だったと思います。

私は元々理系研究者で、科学技術庁金属材料技術研究所（現在物質・材料研究機構）で定年まで勤め、その後、社団法人科学技術国際交流センター（JISTEC）に事務員として4年間勤務、シンガポール国立大学に客員教授として3年間滞在、帰国後直ぐ趣味で21世紀初頭のシンガポールに関する本を書きました。平成17年秋に、それをJISTECで上司だった児玉柳太郎さんに送りました。すると、児玉さんから直ぐ、財団の「『創立25周年記念誌』をつくるのを手伝ってもらえないか」と電話がありました。

その頃、つくば市で客員研究員としてバイオマテリアルの教科書など2冊の監修・執筆をやっていたので、時間的余裕がありません。それで週1回勤務で、記念誌の作成を引受けました。児玉さんや下川さんから必要な資料を提供してもらい、完成したのは平成19年7月です。

これで終わりと思っていました。すると児玉さんから、財団の予算が増え仕事が拡大するので、もう少しここで働かないかと誘われ、残ることにしました。勤務時間は週2回、週3回と増えました。

私は元々事務的な仕事は苦手でした。

最初、外部に委託した危機管理に関する大型調査研究（平成19年度自主事業「日本の危機対応戦略に関する調査研究」）の事務を担当しました。初めてのことで事務方は受託先とどう接すればよいか、その要領が全く解らず、先方や当財団に迷惑をかけました。

多分武安さん、児玉さん、高木さんは見かねたのでしょう。財団の設置目的の範囲内で、好きなことをやれることになりました。

最初の仕事として、平成20年春から3年以上かけて行った世界大学ランキングに関する自主研究があります。調査研究報告書のタイトルは、『「世界大学ランキング」の意味－日本の将来への影響と対策－』です。このシリーズは毎年、『世界大学ランキングXXXX年－日本の大学の動向－』というタイトルで、私が退職する平成27年度まで刊行することができました。

平成23年3月に東北地方太平洋沖で1100年前の貞観地震以来のM9.0の巨大地震と巨大津波が発生し、死者・行方不明者は1万8千人を超えています。福島第1原発が過酷事故を起し、風評被害が多発しました。新聞・雑誌・書籍情報をリアルタイムに収集して、風評被害に関する調査研究報告書を約2年かけて作成しました。

約10年間、当財団で好きなことをやらせてもらいました。ありがとうございました。